

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年3月7日～2016年3月13日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年3月15日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

▼囚人の交換(10日)

・10日夕方、ザカレイシヴィリ和解・市民平等問題担当国務大臣、チリクバ「アブハジア共和国外相」、ツホヴレボフ「南オセチア共和国外相」の立ち会いのもと、アブハジアの行政境界線上において、ジョージア、アブハジア、南オセチアの3者が囚人を交換。ジョージア政府はテロにより終身刑を受けていたオセチ人囚人4名を南オセチア側に引き渡し、アブハジア側は8名、南オセチア側は4名の拘束者をジョージア政府に引き渡した。

・ジョージア側および南オセチア側は、囚人交換の実現におけるアブハジア側の貢献を評価。「ザ」国務大臣は、アブハジアの記者に対し、「南オセチアおよびアブハジア側に大変感謝している」、「人道問題は常に優先的な課題である。この問題については長い間、全ての当事者が真摯に取り組んできた。このような難しい問題について可能であれば、他の問題についても同じように取り組むことが可能であろう」と述べた。

・チリクバ「アブハジア共和国外相」は、囚人交換を「全ての当事者による実務的な協力の好例」と評して歓迎。

・もともと南オセチア側がジュネーヴ会議でジョージア政府に対し、オセチ人囚人の引き渡しを求めている。ジョージア政府によれば、最終的な合意は、三者の直接の協議を通じて実現した。

・ジュネーヴ会議の共同議長 EU、OSCE、国連は、拘束者の解放は重要な人道的措置であり「大いに歓迎する」との共同声明を発表した。

2. 外 政

▼外相のアゼルバイジャン訪問(7日-8日)

・ジャネリゼ外相がアゼルバイジャンを訪問。アゼルバイジャンのアリエフ大統領、アサドフ国会議長、ラシザデ首相、メメディアロフ・アゼルバイジャン外相と会談。

・「メ」アゼルバイジャン外相との会談では、バクー=トビリシ=カルス鉄道などエネルギーや物流、観光の分野の共同プロジェクトや貿易・経済協力について議論。

▼欧州委員会がジョージア国民に対する査証免除を提案(9日)

・欧州委員会は、ジョージアが査証自由化行動計画で設定された全ての基準を満たしたとして、ジョージアを査証免除対象国に移行する旨の改正 EU 規則を提案した。提案が欧州議会および EU 理事会で採択されれば、IC 旅券を所持するジョージア国民は、あらゆる 180 日のうち 90 日までであれば査証なしにシェンゲン域内に渡航・滞

在できるようになる。

・アヴラモプロス移民・内政担当欧州委員は、会見で、欧州議会および EU 諸国が提案について決定を行なうまでには 3、4 か月かかるとして、「初夏には全てが完了しているよう期待する」と述べた。

・クヴィリカシヴィリ首相およびジャネリゼ外相は欧州委員会の提案を歓迎するコメントを発表した。

▼大統領のバクー訪問(10日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領がバクーを訪問。第4回グローバル・バクー・フォーラムに出席。演説で、近隣諸国に対するロシアの政策は国際社会全体が憂慮すべきものであると強調した。

・アリエフ・アゼルバイジャン大統領と会談。SOCAR からの新たな天然ガスの購入契約の重要性が強調された。「マ」大統領は、「この契約は両国間に完全な相互理解があることを明確に示している」と述べた。

3. 内 政

▼ISILと関係した男性4名に対する有罪判決(7日)

・2015年6月に ISIL と関係・協力した容疑で逮捕された男性4名に対し、トビリシ市裁判所は有罪判決を下した。そのうちの1人、パンキン渓谷出身の男性は、同渓谷出身の未成年者2名を戦闘員としてシリアに送ったとして14年の禁固刑を言い渡された。

▼地方知事の辞任(10日)

・キピアニ・シダ・カルトリ地方知事およびルシシヴィリ・ムツヘタムティアネティ地方の知事が辞任。ともに2013年末から知事を務めていた。それぞれの副知事が知事(代行)に就任した。

・知事は首相によって任命される。知事の交代はクヴィリカシヴィリ首相が就任してから初めて。

▼トパゼ議員の発言(10日)

・与党連合のトパゼ議員(「産業がジョージアを救う」党)は、天然ガスの購入をめぐる政府と露ガスプロムとの協議に対する野党の批判に対し、「野党はロシアがジョージアの領土を占領しているため露ガスプロムと協議すべきではないと批判するが、トルコにも占領された我々の領土があるのではないだろうか」と発言。

・クヴァチアンティラゼ与党連合院内総務は、「友好国トルコに対するトパゼ議員の誤った発言」について謝罪。

・ジャネリゼ外相は、外務省と政府を代表し、トパゼ議員の意見に与しないとのコメントを発表した。

▼政治家の盗撮映像の公開(11日)

・野党政治家の私生活を盗撮した映像がインターネット

上で公開された。クヴィリカシヴィリ首相は、盗撮映像の公開は「国家に対する打撃」「社会全体に対する脅迫」であるとして、法執行機関に迅速な捜査を指示。

・一部の NGO や野党は、過去の類似の事件への対応のまがさが今回の事件に繋がったとして政府を批判。ジョージア青年法律家協会会長は、「これは国内の選挙環境、法の支配、人権に対する直接的かつ重大な打撃であり、犯人が早急に逮捕されねばならない」とコメント。

・共和党は、「欧州統合を目指す国にとって破壊的な、極めて危険な傾向であり、犯人が逮捕されない限りは政府の関与の疑いは晴れない」との声明を発表。

4. 経 済

▼日本からの追加円借款(7日)

・外務省にて、東西ハイウェイの建設に対する日本からの44.1億円の追加借款についての調印式が行われた。2009年に調印された約17億円の円借款によって既にクタイシ市内を迂回するバイパス道路が完成しており、追加借款はバイパス道路とゼスタポニおよびサムトレディアを結ぶ区間の建設に使用される。

▼経済・持続的発展相がイスラエルを訪問(8日)

・クムシシヴィリ経済・持続的発展相がイスラエルを訪問し、Elbit Systems-Cyclone Ltd. の航空機工場を視察。同社は2015年9月にトビリシ国際空港付近で航空機部品を製造する工場の建設を開始した。2017年に完成予定。

▼国立銀行が政策金利の維持を決定(9日)

・国立銀行の通過政策委員会は政策金利を8%のまま据え置くことを決定。国立銀行は金融政策の引き締めにより2016年第2四半期以降にインフレ率が徐々に低下すると予測している。

▼エネルギー相がガスプロムおよびSOCARとの協議を説明(9日)

・カラゼ・エネルギー相が、野党の求めに応じて、国会の外務委員会および経済委員会に対し、天然ガスの購入をめぐるガスプロム、SOCARとの協議について説明。

▼経済・持続的発展相の訪米(9日-12日)

・クムシシヴィリ経済・持続的発展相が訪米。トング米国務次官補、アンドリュース米商務次官、ハンス米ミレニウム挑戦公社副社長、シェルマン世界銀行副総裁、アフメド IMF 中東・中央アジア局長らと会談。また、世界インフラ・フォーラムに出席。フォーラムではアナクリア港の建設プロジェクトが大きく取り上げられた。

・会談で「エ」米商務次官は経済状況の改善を目的としたジョージアの国内改革を高く評価。

・10日、ジョージアで複数のプロジェクトを実施している海外民間投資公社(OPIC)社長と会談。「ク」経済・持続的発展相は、同社がアナクリア港建設にも参加するよう期待を述べた。

▼2015年の外国直接投資(10日)

・国家統計局が2015年の外国直接投資の速報値を発表。対内直接投資2487百万ドル(前年比13.4%減)、対外直接投資1136百万ドル(同1.9%増)。差し引き1351百万ドルの入超(同23%減)。

・国別では投資額の多い順にアゼルバイジャン542百万ドル、英国198百万ドル、オランダ111百万ドル、ルクセンブルク87百万ドル、トルコ77百万ドル、中国58百万ドル、ロシア49百万ドル、米国35百万ドル。

・分野別の内訳では、輸送・通信594百万ラリ、金融191百万ラリ、建設129百万ラリ、製造91百万ラリ、エネルギー90百万ラリなど。